

地域一番の事業所を目指す応援誌!

隔月刊

# 通所介護 & リハ



企画・編集グループ 発行/日総研出版部  
通所介護&リハ 第6巻第3号  
平成20年9月30日発行(寄附月の30日発行)  
平成15年7月16日第3種郵便物認可

2008  
9・10 月号

会員制・定期刊行物

連載

- そのまま使える!  
クイズ&ゲームの素
- ケアと連動した記録様式  
〜クリティカルパスのすすめ
- いつまでもおいしく食べていただく!  
安全な食事援助  
〜姿勢の知識と介助の技術
- 通所に生かす! アロマセラピー
- スタッフに  
思わず読ませたくなる一冊

特集3 実践報告!

利用者の  
機能維持・改善効果を上げた  
介護予防への取り組み



特集1

生きがいつくりの具体策!  
**交流が見いだす**  
**利用者への効果**



特集2

サービスを実施する!  
通所サービスに求められる  
**実施記録の**  
**書き方と活用法**





# 迷わない！ 悩まない！ 実施記録をスムーズに 書くポイント

**梅沢佳裕** 福祉と介護研究所 代表

1991年に東北福祉大学社会福祉学部を卒業。介護専門学校で助教員となる。その後、特別養護老人ホーム、在宅介護支援センターの相談員を歴任し、デイサービス、グループホームの立ち上げに複数携わる。その後、通所介護・居宅介護支援事業所の所長の傍ら、「福祉と介護研究所」を設立。現在は独立し、「福祉と介護研究所」を運営、多数の講演活動を行い、看護学校・介護専門学校の講師を務めている。セミナー・講演依頼には誠意を持って応えている。著書『施設職員のための介護記録の書き方』（雲母書房）。社会福祉士、介護支援専門員。  
福祉と介護研究所ホームページ：<http://www4.ocn.ne.jp/~fuku-ken/>

## 事実を書くことの重要性

通所サービスの業務において、実施記録を残すことの必要性は、年々増しています。介護に関する制度・規程、また情報公表などの観点からは、もちろんのことですが、介護士自身の業務の効率性やその振り返りの材料としても、実施記録はとても重要な物だと言えます。これまで記録は、「介護者の私情、主観を折り混ぜないで、事実だけを簡潔明瞭に書きなさい」と教わってきました。記録は、介護士の誰が読んでも、共通の認識が得られる情報交換の場でもあるからです。

しかし、本当にそれだけでよいのでしょうか。私は、時には所感も書く必要があるのではないかと考えています。所感にはいくつか種類がありますが、私

が大切にしているのは、1人の介護士だけが抱えている感情ではなく、「直感」というものです。今までの知識・技術や介護経験から考えた、いわゆる「介護行為に及んだ時の根拠」となるものです。これは、1人の介護士の所感ではありますが、記録に書き残すことでとても重要な情報となります。

事実を書くことは、言い換えれば、私たち介護士が、毎日、献身的に取り組んでいる利用者とのかかわりの軌跡と言えるのではないのでしょうか。

## 実施記録が書けない原因

実施記録を書くとは、「重要な情報を落とすことなく確実に盛り込み、さらに、読み手に分かりやすく文章化していく」という作業です。しかし、日頃は

友人とはいくらでも話ができるのに、なぜか「書く」となると「ペンが止まってしまい動かない」ということがあります。これはなぜでしょう。

言葉には、「話し言葉」と「書き言葉」があり、普段はこの「話し言葉」の方を使用しています。「話し言葉」は、利用者との介護場面で改めて主語などを確認しなくても、「話した順番」に認識されるため、5W1H（いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように）という文章としての組み立て作業が、書き言葉と比べてさほど必要ではないのです。

書くことが下手な人は、まず、書くための材料をしっかりと準備できていないことが少なくありません。つまり、5W1Hの各部分に当てはまる材料が不足しているのです。さらに、その材料を「書き言葉」として要約、整理